

やり直しのできる社会を！

新宿連絡会NEWS

2008.3.21

VOL. 48

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒169-0075東京都新宿区高田馬場2-6-10
関ビル106号 NPO新宿気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-3373-9878
<http://www.tokyohomeless.com>

春の路上 2008

笠井和明

「真冬の冬」と名付けた07～08、14度目の新宿の冬が終わった。

2004年夏、東京都と23区が実施し始めた「ホームレス地域生活移行支援事業」（低家賃住宅提供事業）により、新宿の路上が劇的に変化した（中央公園193名、戸山公園228名がこの1年で都が用意した低家賃住居に段階的に転居、テント数が計358が81に激減）「歴史」（ターニングポイント）を経、次なる発展（概数調査1102名の内、421名38%が路上脱却しても、依然新宿路上景色は消えた訳ではない）を求め、かつ要望を繰り返して来たが、その期待が消滅（08年度からの新規受付の廃止決定）し、固定してしまったのが昨年夏段階。そこに追い討ちをかけるよう、23区で実施している

厳冬期宿泊事業の縮小（06～08年250名前後を収容していたシェルターの的施策が今期は60名前後と激減）。一方改善されつつあった雇用状



況も原油高等の要因が絡み、足踏み状況。また、多くの路上の仲間が仕事に就く建築業が、巷で騒がれた「建築確認」問題で「建築不況」に突入。おまけに言えば、政治の不安定、都会に路上生活者を排出し続けて来た地方格差問題は依然未解決。

幸い暖冬傾向が続き年末まではやけに暖かったが、年が明けてからは都会でも久方ぶりの大雪やら平均気温を下回りと、これまた冬將軍様による追い討ちである。

政治経済が不安定だからであろうが、世は、貧しい人々を追い掛け回すのがブームのようで、味噌も糞も一緒の議論で「ホームレスさんも大変ですね」と軽く同情されるようにはなだったが、本質的な部分は絵にならぬからと、いまだに見向きもされない。

とりまく人々や貧しい人々を政治や宣伝に利用しようとする人々の精神構造も「真冬」ならば、それに合わせてかのように、「固定化」されてしまった当事者もまた「真冬」の状態に突き進んでいる。これはあまり表に出すと誤解されるといけないのであるが、先の厚生労働省が実施した全国実態調査の中で、就労意欲の低下が数値化されているが、それに象徴されている状態である。

「真冬の冬」は、やはり「真冬の冬」でしかなかった。

12月16日の毛布200枚配給から始まった第14次新宿越年越冬事業は、炊き出し、パトロール、医療相談、福祉行動の日常活動の強化に加え衣類、毛布、手袋、マフラー等防寒着、ホカロンの配給等を

強化し、仲間が凍え死なないための万全の策を徹底した。幸い、衣類を中心とした物資カンパが私たちの「冬」の窮状がどこかで伝わっているかのよう（実は名の知らぬ親切な支援者がホームページ等で宣伝してくれたようなのであるが）例年以上の量が毎日山のように届き、新宿中央公園の炊き出しでの配布、高田馬場事務所での配布と、満遍なく新宿の路上の仲間に行き届ける事が可能となった。若干、新宿の仲間の荷物の量を増やしてしまった傾向もあるが、防寒用の衣類、毛布は冬の必需品でもあり、多いに越した事はない。

越年は12月29日から1月4日までの7日間、中央公園にて大型テント3張を中心に実施。前日の28日は恒例のアントニオ猪木さんとその仲間による炊き出しも実施され、こちらでも多くの物資を投入してもらえた。芸能人のこの種の行為は売名行為に見られがちだが、猪木氏は本気でボランティアとしてやっている。毎年お顔を拝見しようやく気付くとはお恥ずかしい限りであるが、新宿の仲間にとって同じ時代を必死に生き「成功」した者が、忘れずにいてくれる何者にも変え難い暖かい励ましである。

越年拠点での炊事では、大量の米を「NPOさいたま自立就労支援センター」の方々から調達して頂いた。この米は埼玉の路上の仲間が一年かけ休耕地を耕したり、援農に出かけて収穫した新米である。食のつながりと云うものは面白いもので、長野県を中心に炊き出し用のお米を集めている「山谷農場」との関わり（長野の農家の方々との協同事業は今年も継続している）から、新たに埼玉県とのつながりへと発展している。また今期から医療相談会を通じて「山友会」の皆様からも余ったお米を頂いている。

一トン以上の米を研ぎ、炊きと云う作業、そしてご飯の上に乗せるおかず作りを今年は都庁の真下で敢行した。野菜や食材は今年も「ファミリー」の皆さんの協力である。そして作業を主体的に担うのは路上の仲間である。



越年期の炊き出しは昼、夜の一日2回体制。毎回200名から300名近い仲間が今年も長蛇の列を作った。

医療テントは24時間の体制で、ボランティアの医師や看護師が毎日交代し、プロの目で仲間の健康をチェック。テント宿泊、救急搬送、出張医療相談、越年明けの福祉申請等を担った（詳細は別紙報告）。

パトロールは拠点を中心に、新宿駅周辺、高田馬場戸山公園を定期的に見回り、また、中野、文京、渋谷区等周辺区への夜間広域パトロールも実施した。

テント中心の野宿形態から移動層中心の野宿形態に変化した東京西部圏ではパトロールでの「発見」と「出会い」が重要となっている。とは云え、野宿拠点は小規模化されつつあり、各所に点在している。これに対応するためパトロールの範囲は広がりつつある。特別区が実施している「巡回相談事業」はあるが、こちらは依然としてテント中心の巡回を続け、しかも、夜間、深夜は未実施と、多くの仲間と出会えるきっかけすら自ら奪っている（お役所仕事と云えば、まさにお役所仕事である）。これと対抗している訳ではないが、民間の発想は違うのであると、私たちは自ら多くの「出会い」を求め実践をしている。是非とも支援活動が弱い地域の行政には真似てもらいたいものであるが。

お楽しみのコンサートや演劇、そして映画会なども越年期間連日実施した。

コマ回しの平野さん親子、闘病とたたかいながら歌い続けるクーペ&Shifo、玉木バンドの皆さん、大晦日は梅津和時、ラビィサリ、五十嵐正史&ソウルブラザーズと豪華恒例メンバーが仲間と一緒に、そして仲間を励ましてくれた。また、これまたお馴染みのさすらい姉妹による劇「鞍馬天狗」も100名近い仲間の前で演じられた。年末のカラオケ大会、紅白上演、餅つき大会、映画会（今年は「男はつらいよ」「ロッキーザファイナル」「晴れたらポップなボク的生活」の三本を上映）など、いつもは寂しい中央公園はこの期間だけは毎日がなんやかんやとお祭り騒ぎであった。

越年期間は暖かめの日が多く、例年に比べれば割と楽な期間でもあった。越年期は支援者も当事者も集中する傾向にあるので、その意味でも支援活動はし易い時期でもある。「越年活動は毎年本当に大変でしょう」と良く言われるのであるが、大変なのはお金集めくらいで、あとは（慣れもあるのだろうが）そう難しくはない。毎日顔を突き合わせていられるし、いざとなれば多方面で動けるだけの条件は整っ

ている。

本当に大変なのは、越年期以外の冬である。

今年も寒波が来始め、本格的な寒さが強まった1月20日に戸山公園で一人の仲間が亡くなった。病状についてはある程度把握し、本人にも自覚症状がある事が確認され、病院につなげようと本人との話しあいも幾度となく持った。

それでも彼の心の闇までは、かいま見る事は出来なかった。幾度もの拒否にあい、そして死に急ぐかのように逝ってしまった。死しても氏名不詳。

長い事こういう事をやっても、ほどけない心の闇だけは太刀打ちが出来ない。これだけの装置を整えたとしても、まったくの無力である。しかも、これだけの「冬」の中、死に急ぐ気持ちは分からぬ訳でもなく、他人には言えない何かを抱えていたとしたら尚更であり、ただ虚しさだけが心に残る。

彼はたまたま新宿にいて、そして私たちと出会ってしまったから、長い人生の最後の日々が知られてしまっただけなのであろう。

こうやって、冬は幾人もの人が路上で死ぬ。そしてそれが不思議と何とも思われなくなっている。「路上でこの冬は何人死んだ」と数だけが強調され、そして「それは大変でしたな」と呆気なく言われる。命の重みはこの複雑化する都会では軽くなった。

全体が生きながらえる方法、そして、個々が生きながらえる方法、その狭間で私たちは毎年のような苦しみもがいている。私たちは幸か不幸か見せられてしまうのである。その全てを。

あたかも当たり前のように繰り返されてしまっている路上の「冬」の責を問うのは難しい。けれども、せめて貧しくとも「屋根と仕事」のある暮らしを提供するのが社会の仕事であると私たちは考え続けている。

生活保護行政を変え、法外援護行政を変え、「自立支援」と云うキーワードで時限立法とは云え「自立支援法」を制定させ、その実施を迫り、自立支援センターを作らせ、緊急一時保護センターを作らせ、就労支援強化を実現させ、地域生活移行支援事業を私たちは実施させて来たが、それはまさに全体としていかにこの厳しい世の中で生きながらえていけるのか、その手段としてであった。

しかし、その「限度」と云うものがこの「冬」は見え始めている。「いつまでホームレスに公金を使っているのか」との市民の声が一体どこにあるのか

不明ではあるが、そんなものを根拠に、施策を中止、または縮小しようとする東京都、23区の現実的な動きであり、施策上の「無力感」である。

本来であれば、民間の先駆的支援活動は、行政施策に徐々に反映され、最終的には普遍的なサービスとなるべきである。それは別に大きな政府を作ろうとか役人の数を増やそうと言っているのではなく、民間委託等安上がりな方法などもあるのだから、そう云う手法を取れば良い。

しかし、ことホームレス問題についての東京都の姿勢はそれとは逆向きで、自らやった事にも責任を持たない。省内で予算を取る事に戦わないどころか、ことホームレス問題に関してはその戦意すら喪失しているような状況である。民間支援活動には何も学ばず、「勝手にやってくれれば」と云う態度。

どこの自治体よりも民間団体と手を携えてホームレス対策はやっていると言っていた頃はとっくに過ぎ、今やそのような無気力状態に墮しているのが東京都の現状である。

そんな無気力役人が路上の「冬」をますます「冬」へと陥れて、固定化されようとしている。

手がかかるものは手がかかるのである。それを認めず、時間を区切ったきれい事の「自立支援」ばかりをノルマ的に考えて施策を実施していた結果でもある。

春は来たけれども、東京は「冬」のままである。行政の施策は10年前よりも「立派に」整ったが、整った瞬間にどこかに泡のように消えようとしている。

原点に還るべきか、それとも第3の道か、悩み多き春の路上である。

(了)



たどり着く人々を支えながら～医療班活動報告

稲葉 剛

医療班は今越年においても、12月29日夕方から1月4日朝まで24時間体制で医療テントを運営しました。医療テントでは、ボランティアの医師と看護師が常駐して、常時、医療相談に応じたほか、重症の人はテント内での一時保護をおこないました。

今越年の医療班活動をとおして、気づいた点を以下に箇条書きにまとめます。

■ふだんから新宿にいる人たちが重症化するケースはあまりなかった。これは新宿に野宿している人たちにとって医療へのアクセスが改善されてきている結果だと思われる。

□風邪の症状を訴える人は例年通り多かったが、鼻風邪中心で腹痛などを伴うものはあまり見られなかった。ただ、越年の後半でインフルエンザを疑われる高熱を出す人が何人か見られた。

■例年、白癬などの皮膚疾患が重症化するケースが見られるが、今回はあまり見られなかった。これは、フリースペースBaBaや「とまりぎ」（新宿区福祉事務所に併設されている社会福祉士による相談所）での日常的なシャワーサービスが浸透し、衛生環境が改善されている結果ではないかと推測される。

□一方で、例年同様、年末年始に各地の宿泊所や病院を出されたまま野宿になったり、アパートの立ち

退きにあった人たちが新宿に流れ着く、という例が今回も見られた。そうした人たちの中には、治療が中断したため疾病が重症化している人が多く見られ、救急搬送を必要とすることもあった。

■また、アルコール依存症を抱えている人や認知症を疑われる高齢者（75歳以上の後期高齢者）など、自分で自分の健康をケアする力を失っている人々が重症化する例がいくつか見られた。残念ながら、過去に年末年始の医療テントで保護して、年明けに入院や施設入所に至った人たちが再び野宿に戻り、また今回も医療テントで保護しなければならないということもあった。

□年明けの福祉行動には18名が参加し、16名が医療機関を受診、うち6名が宿泊所に入所、1名が入院になった。だが、結果的に入所に至らなかった高齢者もいた。

医療班は普段の活動を通して、新宿で野宿している仲間全体の健康状態の底上げには貢献してきたと自負していますが、個別のフォロー体制にはまだまだ脆弱な点があります。全体状況が改善されるにつれ、個別の問題が明確になってきたというのが、今越年の活動全体を通じた印象です。今後の課題としていきたいと思います。

*2008年1月4日 - 7日福祉行動報告（全員紹介状ありの男性）

- 42歳 肝硬変 29日より医療テント保護 29日救急要請するも受診せず
4日苑田第一病院受診 7日宿泊所入所
- 64歳 動悸、息切れ 1日より医療テント保護、2日社会保険中央病院救急受診
4日社会保険中央病院受診 宿泊所入所
- 64歳 肝硬変 31日より医療テント保護
4日医療センター受診 宿泊所入所
- 67歳 糖尿病、両足蜂窩織炎
4日東京医大行くが受診せず 宿泊所入所 7日高田馬場病院入院
- 60歳 糖尿病、両足しびれ・浮腫
4日厚生年金病院受診 7日宿泊所入所
- 59歳 熱発 3日より医療班外部テントで保護
4日医療センター受診 宿泊所入所
- 51歳 右胸痛、血痰 4日洗足池病院入院
- 75歳 腹痛、右手痛み 4日医療センター受診 宿泊所に行くが入所せず
- 59歳 咳、痰 過去に2度結核で入院 7日に受診予定
- 60歳 腰痛 4日東京医大受診
- 41歳 白血球減少（10月の健診で指摘された） 4日医療センター受診

- 43歳 白癬疑い 4日東京医大受診
- 40歳 腰痛 4日春山外科受診
- 54歳 両耳かゆみ・耳垂れ 4日社会保険中央病院受診
- 66歳 高血圧、心窩部痛、難聴 4日来所するも酒気帯びのため後日へ
- 42歳 左足関節痛 4日来所するも時間が遅いため後日へ
- 56歳 右上顎腫脹・疼痛 4日新大久保歯科受診
- 48歳 耳鳴り、難聴、熱発 7日社会保険中央病院受診

*越年中の救急入院（全員男性）

- 55歳 慢性腎不全、高血圧 30日駿河台日大病院救急入院 1日退院
- 58歳 右腿熱傷 1日女子医大救急受診 2日入院
- 76歳 心不全 3日慶応病院救急受診、済生会中央病院救急入院

パトロール班活動報告

稲葉 剛

越年期のパトロールは例年、メンバーの疲労が蓄積するため、今回はあまり無理なスケジュールは組まず、効率的に回ることを心がけました。

そのため、活動拠点のある中央公園と新たな人たちが流入しやすい西口地下（4号街路及び地下広場）を重点地域することにして、他のエリア（西口・東口・北口）は期間中、2回ずつ顔を出すにとどめました。またそれを補うため、「駅周辺」という普段は実施していない簡易コースを設定しました。

東口コースと地下広場では、衰弱した人を見つけ、

中央公園の医療テントまで送り届けるということがありました。

医療班との連携や、パトロール後の雑炊に見られる炊き出し班の仲間の心遣い、車を出してくれたドライバーの仲間の協力があつて、越年期のパトロールをやりきることができました。ありがとうございます。

今後も野宿の仲間から一番近いところにいることを心がけ、新宿の街をパトロールをしていきたいと思えます。

*越年期パトロール記録（人数のない項目はカウントなし）

日時	時間帯	詳細		
12月29日	20時～	中央公園59人	駅周辺83人	
	23時～	4号街路66人	地下広場90人	
	24時～	深夜広域	新宿区内広域（高田馬場周辺小公園等）	
12月30日	16時～	中央公園		
	20時～	西口 67人	東口45人	北口31人
	23時～	4号街路 71人	地下広場87人	
	24時～	深夜広域	飯田橋周辺、明治神宮周辺等	
1月1日	18時～	戸山公園、高田馬場駅周辺		
1月2日	20時～	西口72人	東口58人	
	23時～	4号街路76人	地下広場91人	
	24時～	深夜広域	中野区内小公園、代々木公園等	
1月3日	16時～	中央公園		
	20時～	駅周辺85人	北口52人	

2007-08 新宿連絡会越年期集中活動・医療班報告書

新宿連絡会医療班 大脇甲哉

活動期間：2007年12月29日から2008年1月4日まで7日間

活動場所：新宿中央公園水の広場（12月29日-1月4日）及び戸山公園（1月2日）

活動内容：医療テントを設置し、医療職ボランティアによる昼夜2交代体制での24時間対応活動

衰弱者の保護、血圧計測、処置、医療・歯科相談、軽症者に対する市販薬提供、
重症者の医療機関緊急受診時の付添および救急車への添乗、福祉生活相談

集中医療相談（12月30日、1月3日）、福祉事務所への付添（1月4日）

医療班参加ボランティア 42名：医師14、歯科医師1、看護職15、薬剤師1、鍼灸師2、一般4、学生5

<活動結果>

医療相談受診者総数 74名 男性 74・女性 0 相談者実数 69

平均年齢：55.8歳、最低年齢：30歳、最高年齢：76歳

年齢分布：30歳代 2、40歳代 13、50歳代 30、60歳代17、70歳以上 5、不明 2

医療テント保護者数 12名 延べ数 27（人X日数）

- 1) 64才、心房細動・心不全・高血圧：1/2 社会保険中央病院受診、施設入所、生活保護受給
- 2) 58才、熱傷・二次感染：1/2 東京女子医大入院、植皮手術
- 3) 76才、心不全・肺炎：1/3 済生会中央病院入院、退院後施設入所
- 4) 59才、インフルエンザ疑い：1/4 国立国際医療センター受診、施設入所
- 5) 42才、インフルエンザ疑い：症状軽快、福祉行動せず
- 6) 51才、結核または肺腫瘍疑い：1/4 洗足池病院入院、肺癌診断
- 7) 75才、急性腸炎・指骨折：1/4 国立国際医療センター受診
- 8) 60才、急性上気道炎：福祉来所せず、経過不明
- 9) 43才、下顎骨髄炎・顎関節炎：テントからいなくなり、経過不明
- 10) 42才、アルコール依存・離脱症状・腸閉塞：1/4 苑田第1病院受診、施設入所
- 11) 64才、アルコール依存・肝硬変・胃潰瘍：1/4 国立国際医療センター受診、施設入所
- 12) 31才、アルコール依存：テントからいなくなり、経過不明

救急搬送 4件：

入院3：テント保護 2),3)、慢性腎不全・人工透析中断：12/30 日本大学駿河台病院緊急透析
受診投薬1：テント保護 1)

医療相談者数 70名

循環器疾患21（高血圧）、運動器疾患18（腰痛、関節炎）、呼吸器疾患16（感冒、結核疑い、
インフルエンザ疑い）、消化器疾患12（嘔吐、下痢）、内科疾患12（熱発、糖尿病）、
皮膚疾患10（白癬）、歯科7、精神疾患6、肝胆道疾患2、眼科疾患1、

紹介状枚数 30

市販薬提供 延べ数 291名

感冒薬213、胃薬83、湿布38、鎮痒薬30、止瀉薬17、鎮痛薬15、抗白癬薬10、
紫雲膏5、目薬2、絆創膏・ガーゼ30、マスク32、ホカロン63

<越年活動結果>

医療機関受診外来治療 15名

越年期間中緊急受診4、福祉対応後受診11

高血圧3、白癬2、糖尿病2、中耳炎2、心不全2、腰痛2、結核2、アルコール依存2、蜂窩織炎、
肺腫瘍、肺炎、熱傷、腎不全、歯周病、骨折、化膿創、インフルエンザ（重複あり）

入院治療 5名

越年期間中緊急入院3、福祉対応後入院2

宿泊施設入所 8名

<テント保護者の受診前の経過>

医療相談受診者	定期	越年	合計
総数	95	74	169
男性	90	69	159
女性	0	0	0
平均年齢	56.7	55.8	
紹介状	65	30	95
医療機関受診	36	15	51
入院	0	5	5

野宿歴	野宿場所	今回野宿に至る直前の居所	
2日	新宿駅	友人宅	福島県
2日	新宿駅	入院	葛飾区
2日	新宿駅	アパート	中野区
1週間	西口	非野宿	岩手県
1ヶ月	戸山公園	飯場	埼玉県
1ヶ月	新宿駅	アパート	杉並区
4ヶ月	都庁	福祉寮	港区
1年	護国寺	野宿	文京区
不明	東口	入院	千葉県
不明	西口	野宿	西口
3年	都庁	野宿	西新宿
10年	新宿	野宿	新宿区
13年	新宿駅	野宿	新宿駅

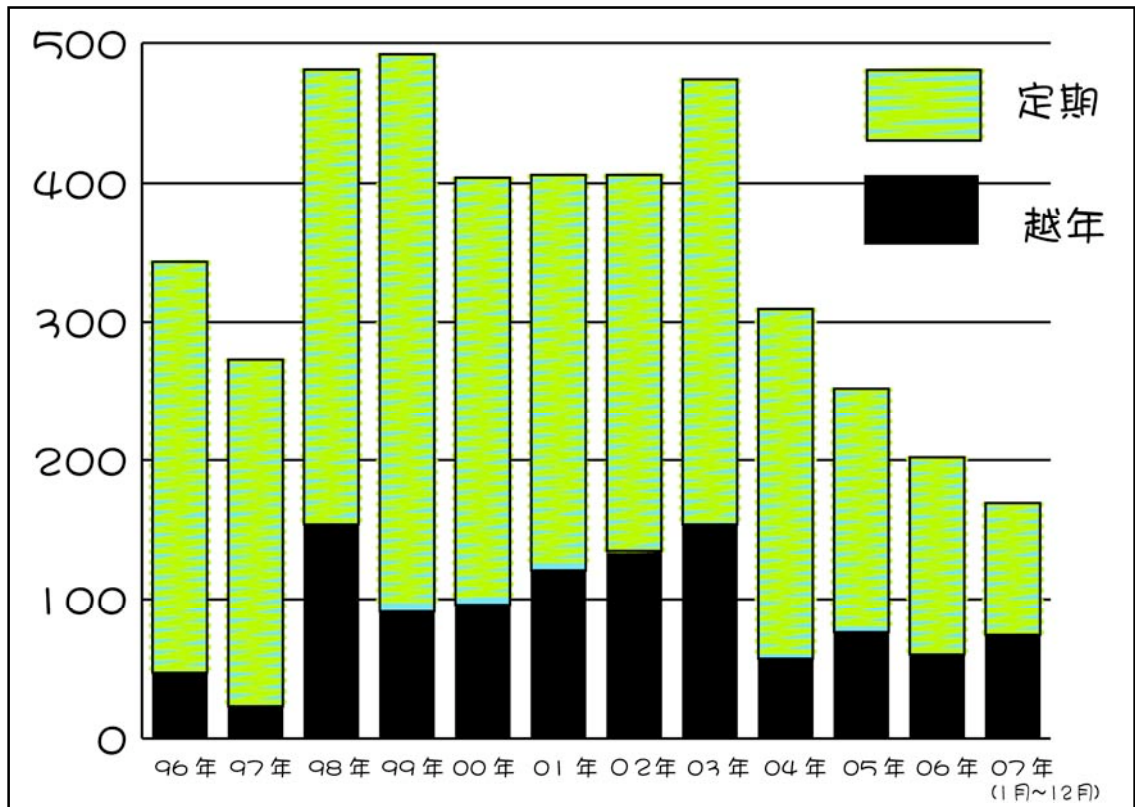
定期医療相談 2007年1月-12月 合計13回
 越年集中活動 2007年12月29日-08年1月3日

<新宿に関する野宿関連年表>

1994年 新宿連絡会結成
 1996年 西口地下通路ダンボール村強制排除
 連絡会・医療班結成
 1998年 西口地下広場ダンボール村火災、
 中央公園に野宿拠点移動
 2000年 自立支援センター開設

2001年 緊急一時保護センター開設
 2002年 ホームレス自立支援法施行
 2004年 東京都地域生活移行支援事業開始
 新宿区から421人アパートに移行
 2006年 東京社会福祉士会、新宿区拠点相談
 事業「とまり木」開始

医療相談者数 年度別集計



2月7日全国ネットで院内集会など 中央行動が行われました。

昨年10月の厚生労働省等との交渉に続き、ホームレス支援全国ネットは2月7日午前、厚生労働省、国土交通省とのホームレス自立支援法見直しについての交渉、午後から「二・七 誰もが野宿を解消できる基本方針を！」と題する院内集会を行い、結集された超党派の国会議員の方々への激励を行なって来ました。

新宿連絡会も40名の仲間とこの集会に合流、北は北海道、南は沖縄まで代表で上京して来られた支援の方々と共に地元東京でのホームレス問題の深刻化と、その中でも仲間の力で力強く生き抜いている姿を訴えて来ました。

集会には衆参あわせて17名もの国会議員、2名の前議員、9名の議員秘書代理参加と、地味なテーマな



がらも多くの議員関係者の注目を浴びています。全国化し、地域間の格差が広がるホームレス対策を、それぞれの地域に合った「屋根と仕事」に結びつく均一な施策にしていくため引き続きの政府交渉、そして議員ロビー活動を全国ネットでは行なって行く予定です。連絡会もこの全国規模のたたかいに集中していきます。

新宿連絡会

2007年11月～2008年2月会計報告



取入)		支出)	
炊出部門寄付	534,500	炊出し事業費	250,524
通信部門寄付	2,000	諸活動費	64,834
活動部門寄付	10,000	教宣活動事業費	73,527
越年越冬寄付	2,353,975	事務費	49,748
その他寄付	269,450	越年越冬事業費	1,676,934
借入金(繰越し債務)	776,606	池袋関連事業費	140,000
		雑費	21,299
		返済金	1,669,665
合計)	3,946,531	合計)	3,946,531

新宿越年越冬事業のため、多くの方々から衣類を中心に暖かいカンパを頂きました。頂いた物資はすべて新宿、池袋の路上の仲間に出致しました。

ありがとうございました！引き続きお米や男性もの衣類（春、夏用）の募集をしています。今後とも宜しくお願い致します。

●日常活動への現金カンパ

振込は、郵便振替口座00160-6-190947「新宿連絡会」まで。

オンラインカンパは、<http://www.gambanpo.net/>「ガンバNPO」（登録NPOを探すをクリックし新宿連絡会を見つけ、そこから寄付ご協力をお願いに入ってください。）からだとジャパンネット銀行、クレジットカードで寄付が可能です。

●郵便物及びカンパ物品送付先は以下の住所にお願いします●

★郵便物及び衣類（男性もの春、夏もの）、医薬品、米などのカンパ物品は

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-6-10関ビル106号NPO新宿気付 新宿連絡会 宛て

（平日9時～5時で受取が可能です）をお願いします。